

語の上に觀察しなければならぬ、國民道德を特殊のものに限つて、さうして單に忠孝倫理のみを説くのでは、私は勅語の精神を明かにし得ないのであらうと考へます。勅語は凡ゆる徳目を綜合的に示しになつて居り、又教育勅語を解釋するに就ては、他の詔勅、御製その他日本の健全なる文化を綜合して考へなければならぬのであつて、教育勅語だけを切離して狹義に勅語を運用するが如きことは、それは綜合觀察といふ思想律に反した態度であります。今日學者が各自専門に分れた爲に、思想が頗る分裂をして參つたのである、それ故に如何なる職務に従事する者でも、この綜合的觀念を養はなければならぬ。宗教家は唯だ宗教の局部に頭を突込んで所謂國家あるを知らず、文明あるを知らない、唯だ般若心經をボク／＼とやつて居る、教育者は黑板の前に立つて、唯だ言葉で形式的な事を言つて居つてはいかぬ、實生活に移つて、實際の人生なり社會なりに於ては、宗教の必要缺くべからざる事は、最も能く理解して掛らなければならぬ。自身が宗教を信じなかつたならば、自身の人格が調はない、人格は

人格を以て教化すべきものであるから、信仰なき教育家が國民に信念を與へんとするが如きは、實に木に縁つて魚を求むるよりも難いことではなからうか。あらゆる事柄がすべて偏らないで、官僚的といふか、因襲的といふやうな弊害を棄て、所謂「舊來の陋習を破つて天地の公道に基く」との聖旨に依つて、教育勅語を解釋し應用せられんことを希望するのであります。そこに今日は陋習がありはせぬかと思ふ、その勅語に伴ふ所の陋習を打破しなければならぬと思ふのであります。

二、本末輕重律

第二には本末輕重律であります、これは道德を研究する上に於ては最も大切なことであり、又人生を研究する上にも大切なことである。物質生活は無論人間に缺くことは出来ない、身體がある以上は衣食住を要する、けれども徳は本なり、財は末なり、本末を知らば道に邇しと孔子の言ふた事は、今も尙ほ渝らぬのである。而して教育勅